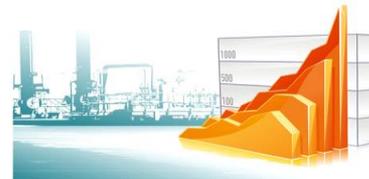


# ぎふ経済レポート



平成28年9月分  
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは9月28日～30日を中心に実施し、10月11日に作成。

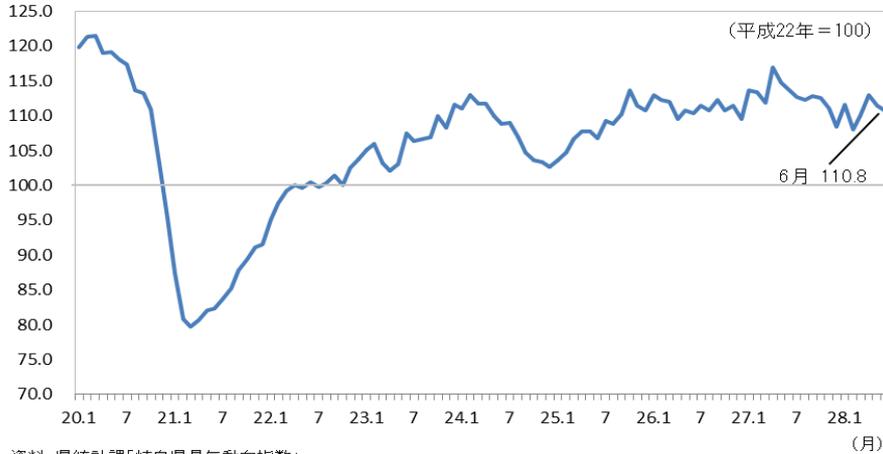
# 景気動向

○6月の景気動向指数(一致指数)は、110.8と前月より0.6ポイント下降した。

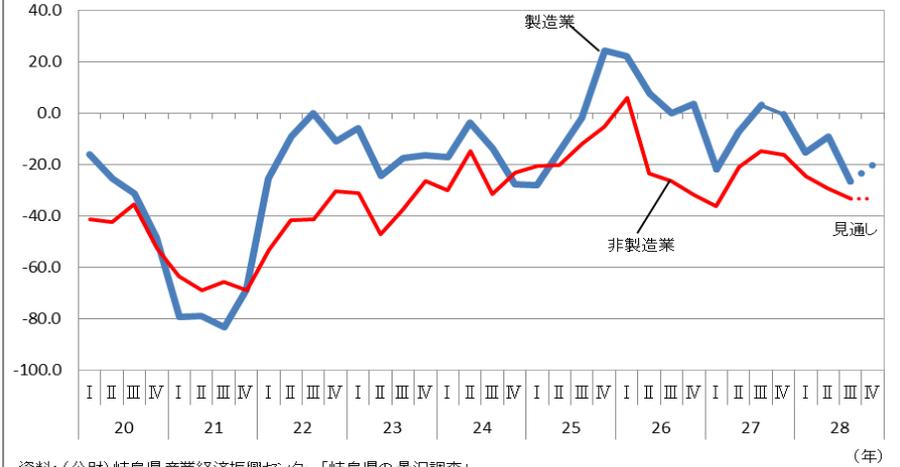
○8月の県内中小企業の景況感は、マイナス17と前月より6ポイント改善し、2ヶ月連続で上昇した。

○平成28年7-9月期の売上高DIは、製造業が17.4ポイント減少、非製造業も3.9ポイント減少した。一方、採算DIは、製造業が1.6ポイント減少、非製造業も8.3ポイントの減少となった。

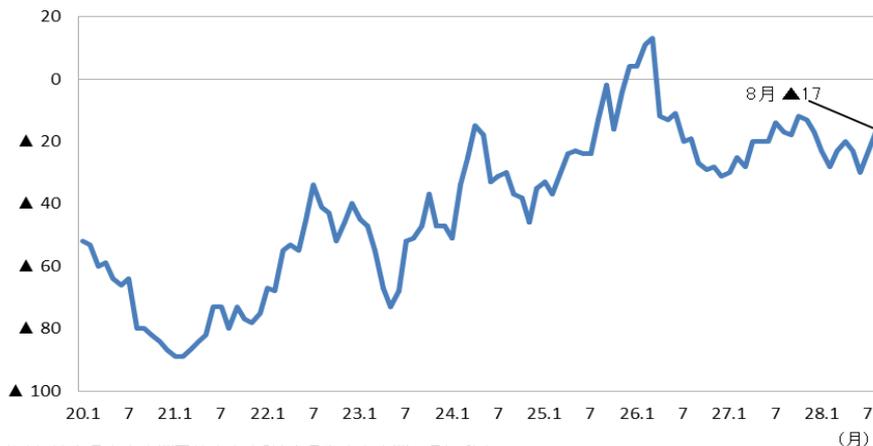
岐阜県景気動向指数(一致指数)の推移



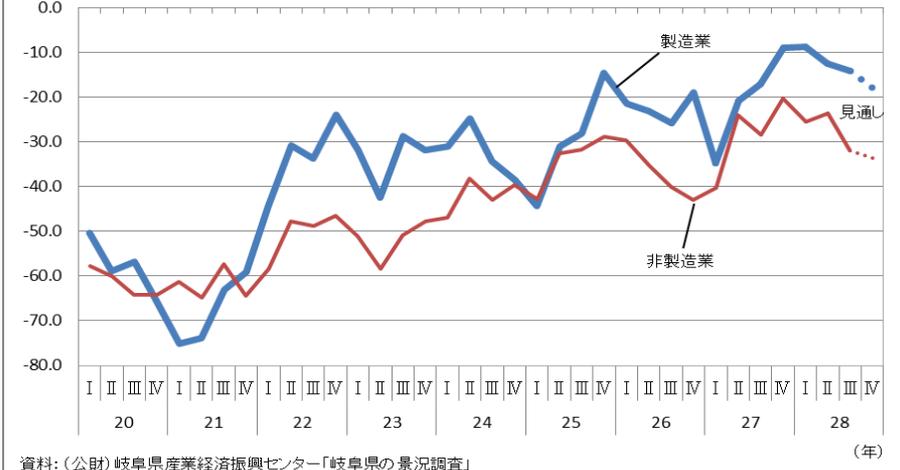
県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の採算DI(増加-減少)の推移

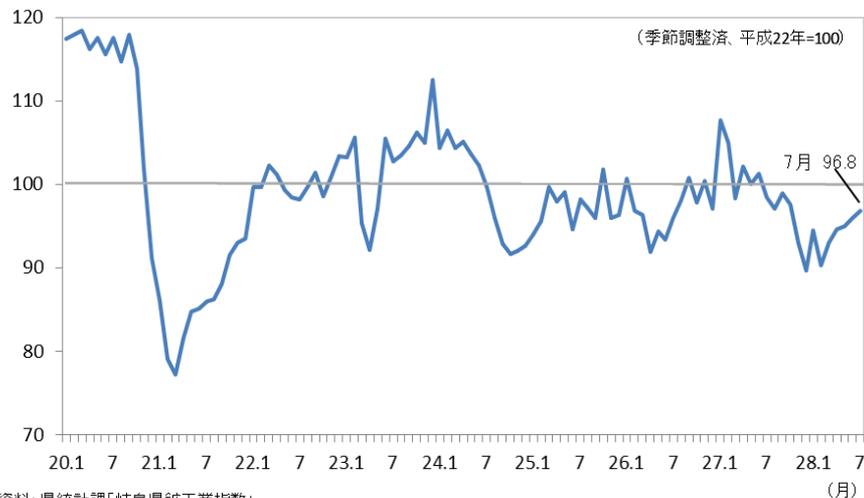


# 製造業

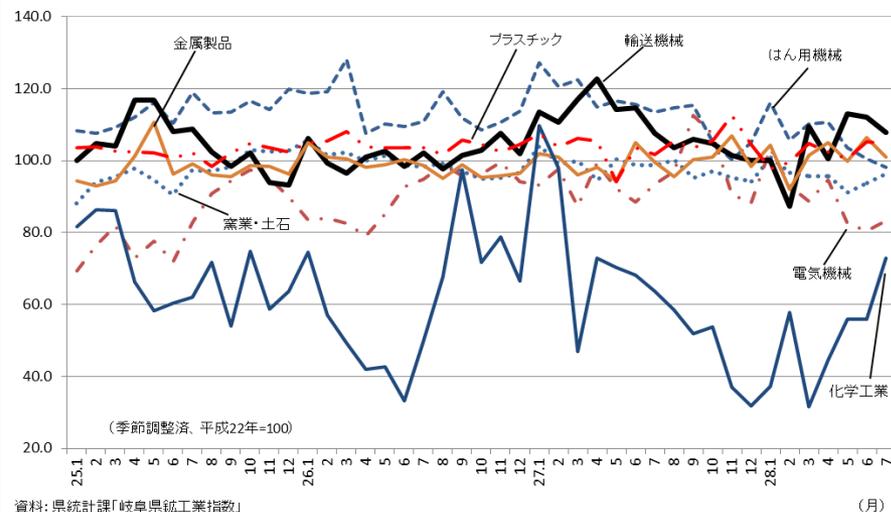
- 7月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、前月比0.8%上昇し96.8となった。
- 足元、同指数は5ヶ月連続の上昇により、前年同月水準にまで回復してきている。

- 7月の主な産業の鉱工業生産指数は、電気機械、窯業・土石、化学工業が前月から上昇するも、その他の産業は軒並み下降した。
- 化学工業の上昇が全体プラスに寄与した。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数



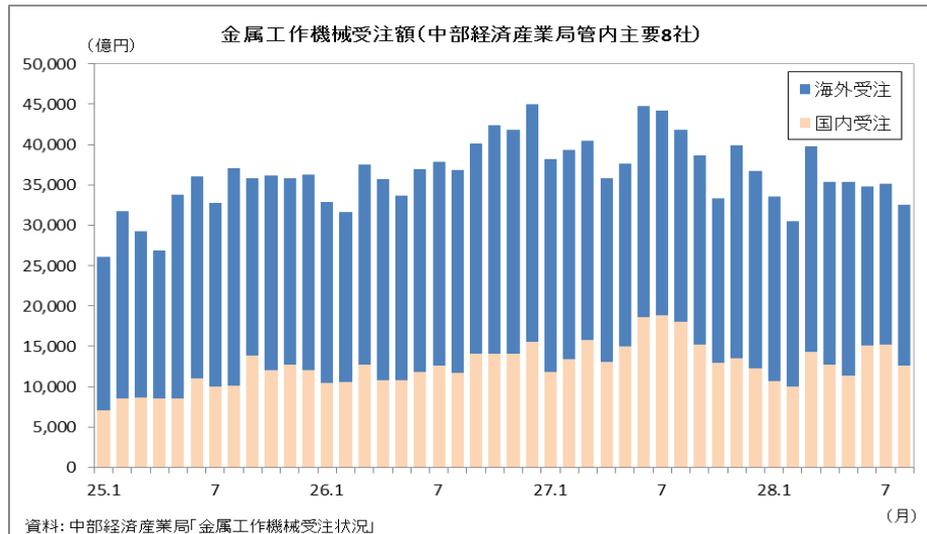
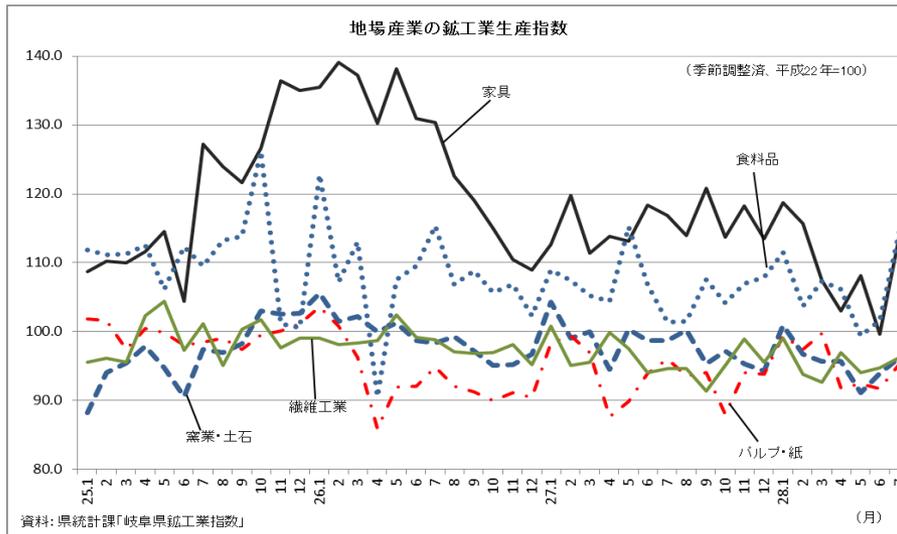
## 現場の動き

- ◆2輪車の販売は国内での好調に加え、不調の続く東南アジアが好転し、計画通りの販売が見込めるようになった。
- ◆受注は前年比増加。トヨタの操業停止による挽回生産は今(9)月末までに目途を立てると聞いている。(輸送用機械)
- ◆売上・受注量ともに、前年比約10%増加。冬物のおでん容器の受注が始まり、好調に推移している。(プラスチック)
- ◆売上・受注量は前年比横ばい。海外生産(タイなど)での事業が好調に推移している。(電気機械)
- ◆売上・受注量は前年比約5%減少。タイの干ばつ・為替による農耕機関連の引合いの減少が主要因。自動車部品関連は現地調達拡大により、輸出量は減少傾向。一方、その他は円高により海外からの調達量は微増。(生産用機械)
- ◆売上・受注ともに前年比約1割増で推移してきたが、直近2ヶ月はともに若干下振れ傾向にある。(非鉄金属製造)
- ◆飲料の売上は天候不順の影響もあり、生産量が伸びず、前年同月比微減となった。(食料品)

## 製造業-2

- 7月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、全ての業種で前月から上昇した。特に、家具、食料品は2桁増の大幅上昇となった。
- 今年度に入り、指数はおしなべて上昇傾向にあり、前年同月水準にまで回復している。

- 8月の金属工作機械受注額は、海外受注は微増となるも国内受注の減少がひびき、全体では前月から減少となった。
- 前年同月比で見ると、受注額は22.2%の減少となり、12ヶ月連続で前年を下回る。

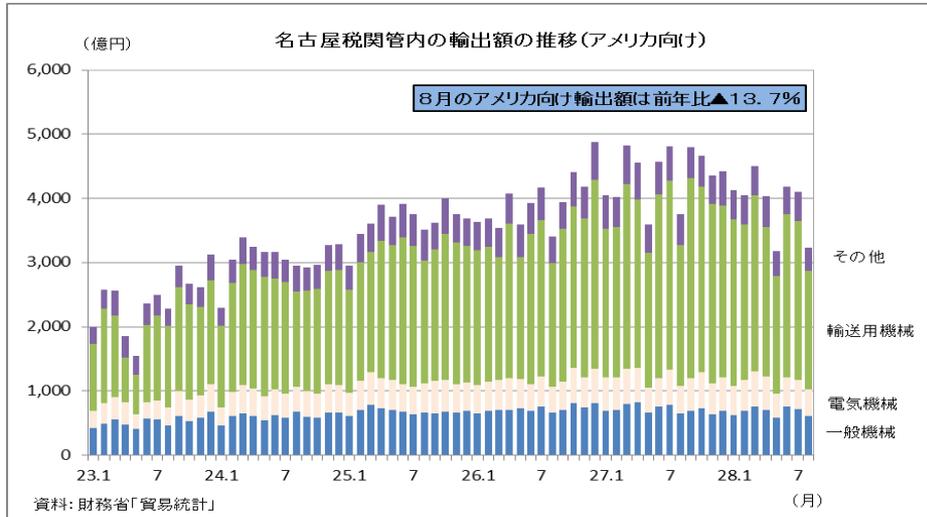
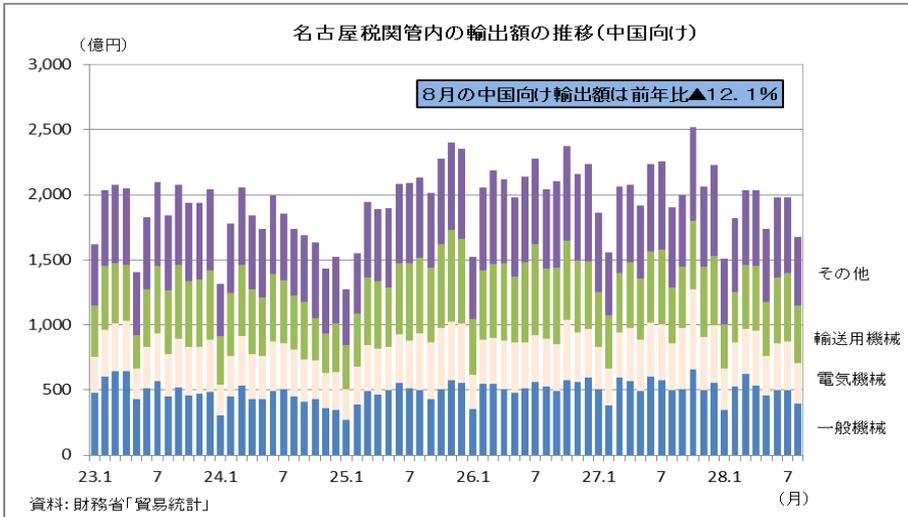
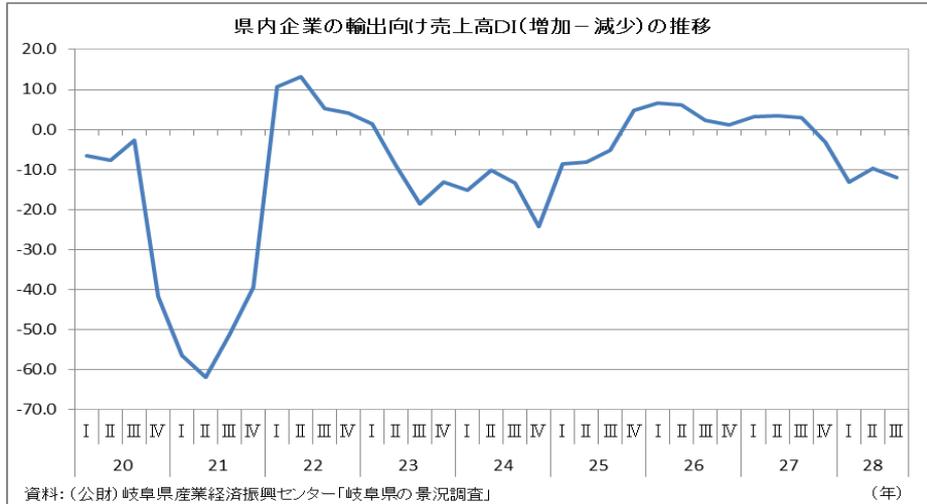
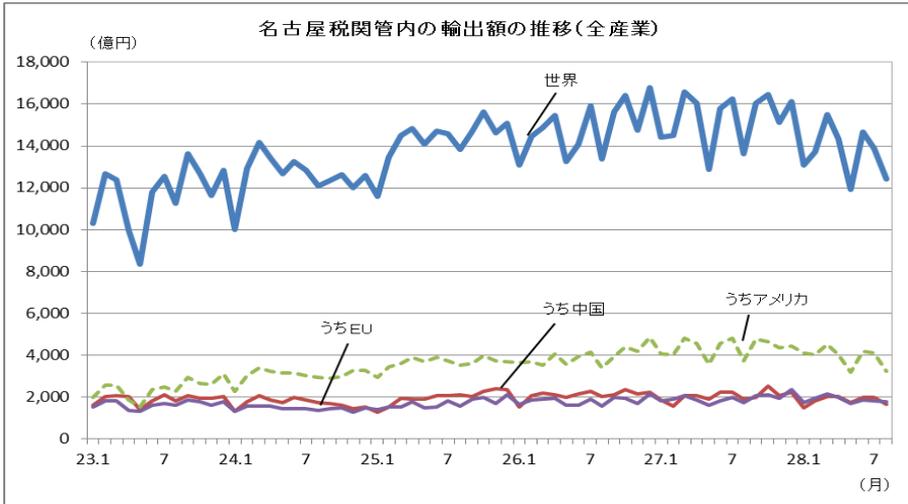


### 現場の動き

- ◆売上は横ばい。新商品の開発を始めたが、デザインは外部委託とし、新たな投資(雇用・設備)は行わない。(陶磁器)
- ◆売上は前年比減少傾向にある。需要が縮小し続けており、廃業による組合員の減少も続いている。(アパレル)
- ◆売上は前年比90%程度。取引先の東京近郊の刃物屋やお土産物屋では、インバウンドによる売上が鈍化。(刃物)
- ◆業況は好調。テレビ番組で自社製品が放送されたことで、ネット注文や問い合わせが増加している。(紙業)
- ◆売上・受注はともに前年比横ばい。オリンピックに向けて、首都圏等へ売り込みをかけている。(木工)
- ◆業況はやや上向き。飛騨牛カレーの売上が寄与している。(食料品)

# 輸 出(名古屋税関管内)

- 8月の輸出額は1兆2,407億円で、前年同月比8.9%減となり9ヶ月連続で前年を下回った。
- うち中国向けは、全ての産業で減少し、同12.1%減と6ヶ月連続で前年を下回った。
- うちアメリカ向けは、全ての産業で減少し、同13.7%減と6ヶ月連続で前年を下回った。
- 県内企業の輸出向け売上高DIは、昨秋から続くマイナスに下げ止まりが見られる。



## 為替・原油価格の動向による影響について

- ◆原油価格の下げ止まりとともに、電気・ガス・燃料等のエネルギー価格の上昇がコスト高となる。(食料品製造ほか)
- ◆社内で緊急円高対策として、為替影響による売上・利益減への対策を実施していく。
- ◆現在の社内想定レートは105円/\$であり、8月以降100円強で推移していることから、10月に見直しをする可能性あり。(以上、輸送用機械)
- ◆直近の円高で、外材の小割材の価格が弱含み、国内産もそれにつられて弱含んでいる。(木材市場)
- ◆新規顧客取込み強化策として、インバウンドをターゲットに絞り、免税対応店舗を対象にドラッグストアや家電量販店等で好調な商品の品揃えを奨めている。(コンビニ)

## 消費税増税再延期による影響について

- ◆展示場への集客が若干落ち込んでいる。今後、契約まで時間を要する客が増加する可能性あり。(住宅関連)
- ◆軽減税率適応品目次第では、影響度合が大きくなる。何れにせよ、駆込需要とその反動は避けられない。(コンビニ)
- ◆年金や社会保障等、将来に対する不安が増大し、節約傾向が強まっていると思う。(大型商業施設)
- ◆今のところ、影響はない。(輸送用機械、非鉄金属、生産用機械、プラスチック製品、小売業、製材ほか)

## 英国のEU離脱(選挙結果)について

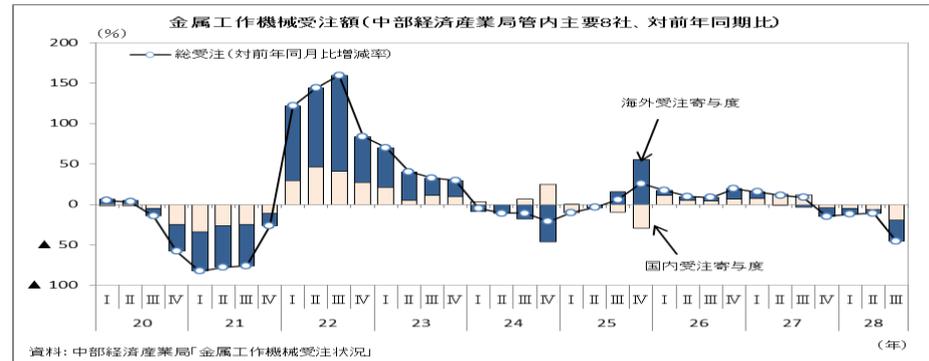
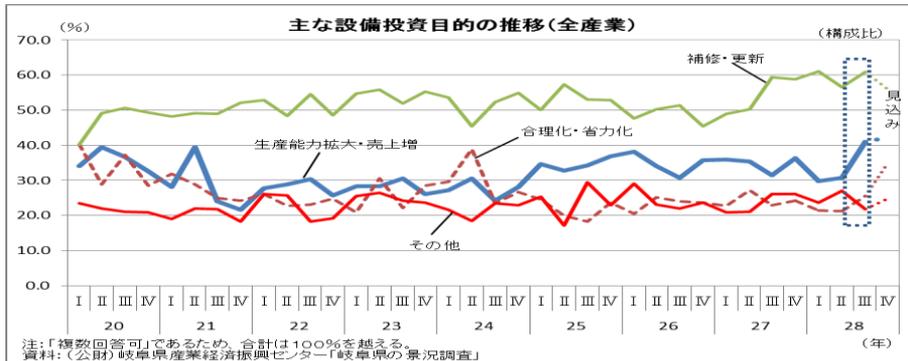
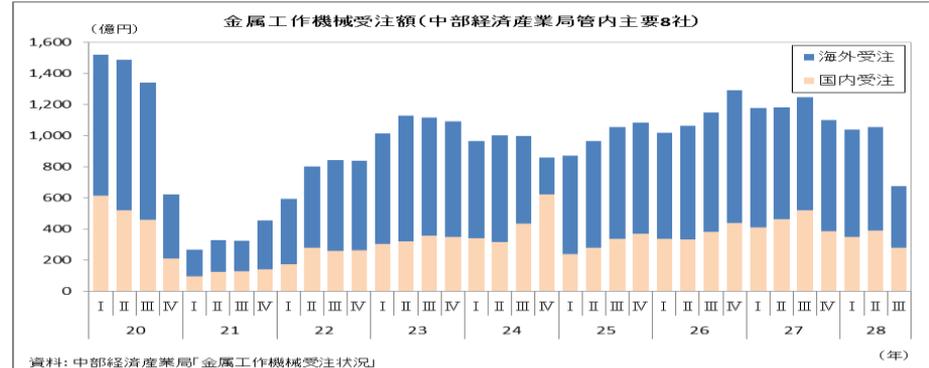
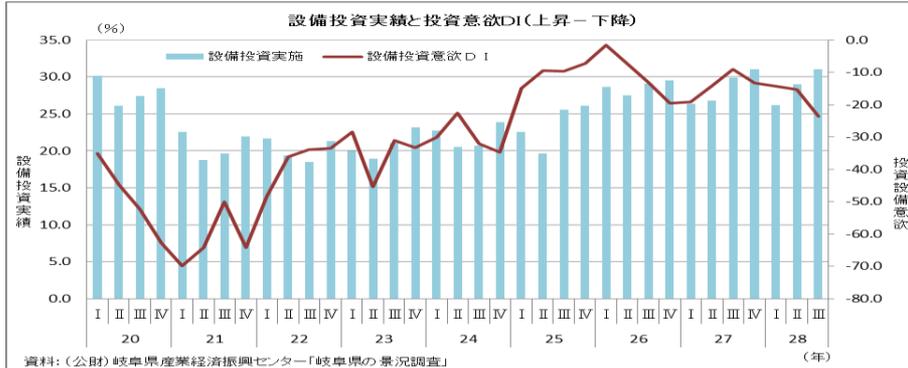
- ◆円高による輸入原材料費の低減が見込まれる。(輸送用機械、非鉄金属、生産用機械、プラスチック製品ほか)
- ◆国内経済への影響、為替変動による取引先への影響及び原料動向等を注視している。(輸送用機械ほか)
- ◆離脱結果の報道後、イギリスからの観光客が減少している。(高山市商店街)
- ◆円高ユーロ安が進むと、欧州材(ホワイトウッド等)の輸入が増えるのではないかと危惧している。(木材市場)

## TPPの影響について

- ◆どれくらい影響がでるかはわからない、または影響なし。(輸送用機械、金属製品、はん用機械、木工、刃物ほか)
- ◆組合員の反応は薄い。早期に批准されても、何年もかけて関税ゼロとなる国もあり、期待感は高くない。(陶磁器)
- ◆海外市場への商流が整えば、付加価値が高い商品として輸出できるため、追い風となると考える。(食料品)
- ◆足元、影響ないが、今後海外から食材の輸入品が安く入手できる可能性があり、担当部署で対応検討中。(コンビニ)

# 設備投資

- 平成28年7－9月期の設備投資実績は前期から上昇に転じた。目的別では、「生産能力拡大・売上増」が大幅増となり、次いで「合理化・省力化」、「補修・更新」も増加となる。
- 平成28年7－9月期の金属工作機械受注額は、国内・海外受注ともに減少し、前年同期比45.7%の大幅減となり、4期連続で前年を下回った。



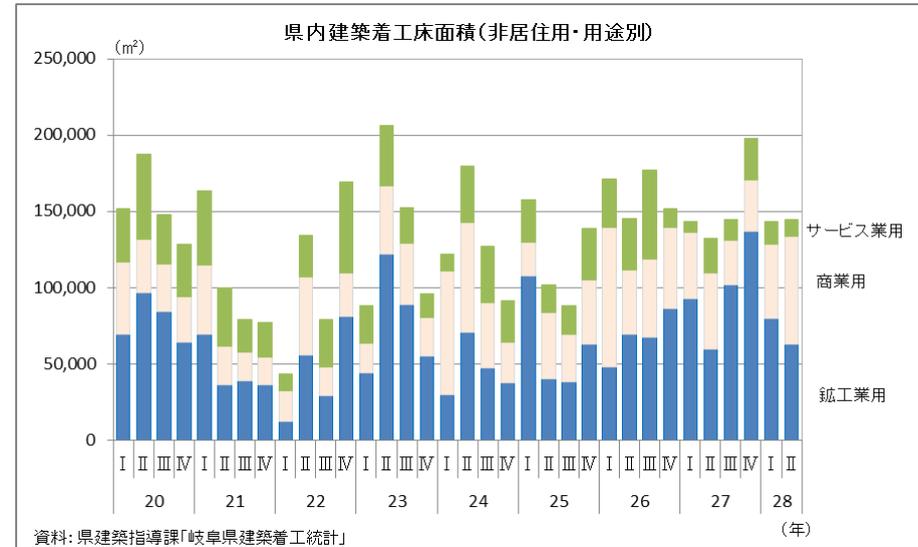
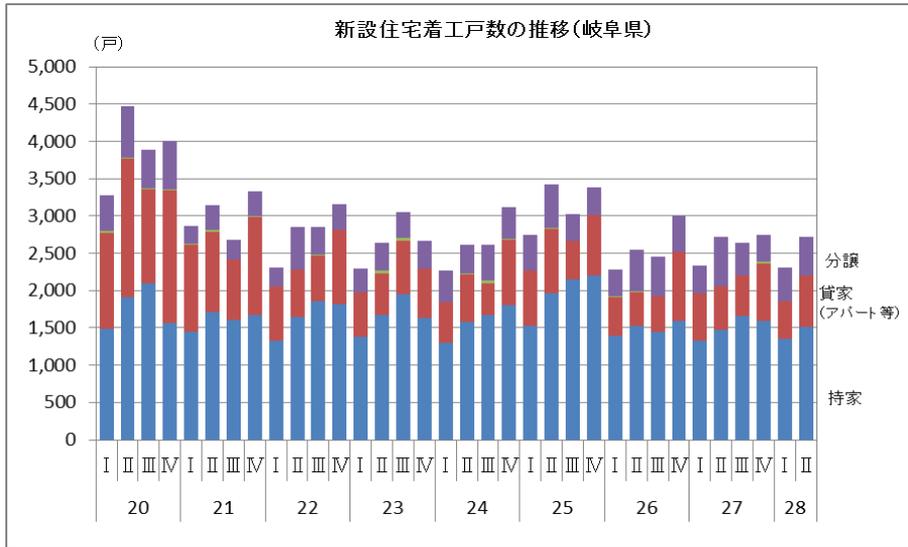
## 現場の動き

- ◆省人化のための包装機を増設。今後、ロボット(包装工程用)の導入も検討している。(食料品製造)
- ◆生産ラインの見直し等による原価低減の推進、分散する工場の集約による効率化を推し進める。
- ◆省エネ活動の強化策として、エネルギー(電力量)の使用状況がリアルタイムで管理(監視)できるシステムを導入し、省エネ・コストダウンの取組みを開始した。(以上、輸送用機械)
- ◆今後も受注増加が見込まれ、工場適地があれば購入検討したい。例年に比べ、設備投資の範囲を拡充。(非鉄金属)
- ◆設備投資ができる状況になっていない。(アパレル)

# 住宅・建築投資

- 平成28年4－6月期の住宅着工戸数は、前年同期比、貸家が約20%増となる一方、分譲が逆に約20%減となり、全体では横ばいとなった。
- 直近3年は1期・2期ともに同水準で推移。

- 平成28年4－6月期の建築着工床面積は、対前期比、鉱工業用は減少、商業用は増加となり、全体では横ばいで推移。また、前年同期比で見ると、商業用がプラス寄与し、9.2%増となった。

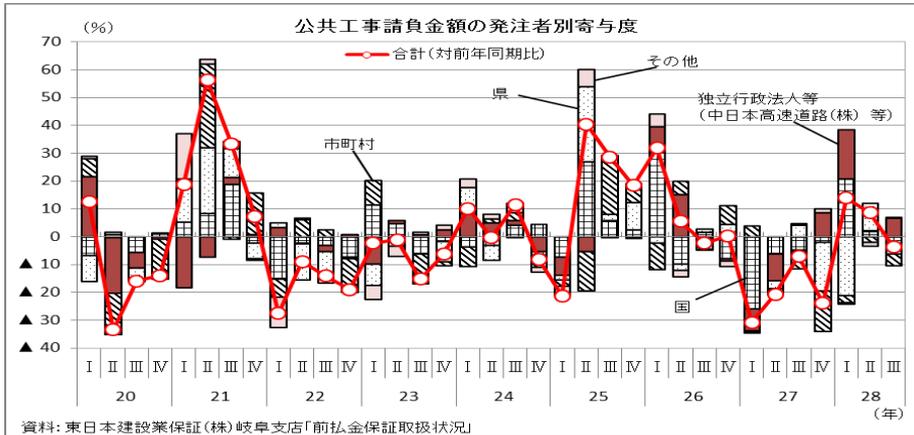
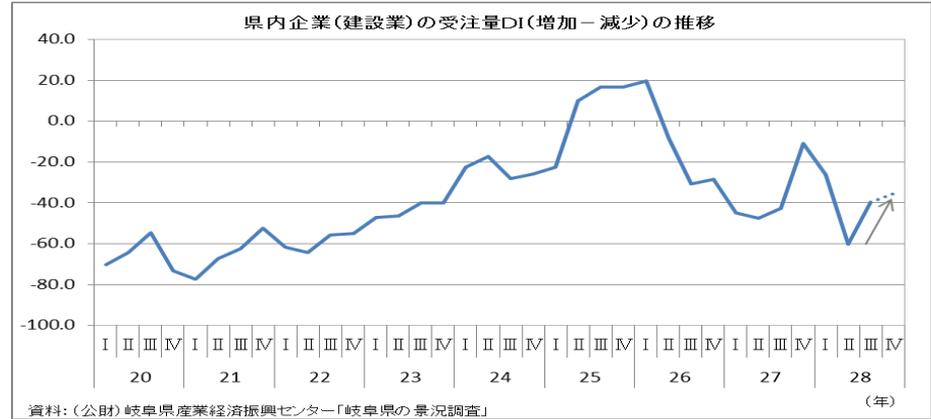
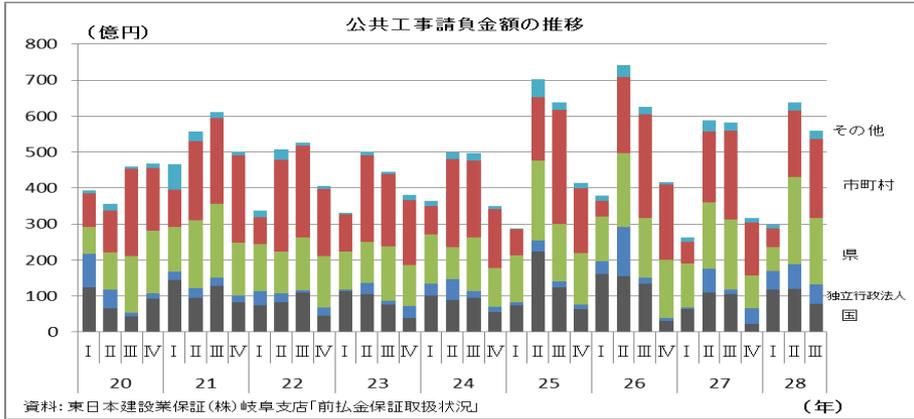


## 現場の動き

- ◆当社では、建物は30～40坪が一番多い、一方で50坪以上のものもあり、建物規模は二極化している。
- ◆受注状況及び展示場の集客は前年同期比横ばいで推移。12月までの見込み客は増加している。(以上、住宅関連)
- ◆売上は木材部門が前年比94%、工事部門が81%、会社全体では同94%で推移。受注は、受注残が増えてきている。(製材・住宅)
- ◆プレカットは、公共物件(大型)の受注があり、手刻み加工もあることから2シフトで対応しており、大変多忙である。
- ◆昨今の雨の影響から出荷量は例年の半分程度となる。また、民間事業者からの出荷量も減少傾向。
- ◆スギ、ヒノキともに、価格は若干上昇。台風や大雨の影響で、東北や九州地方での被害が多く出た為、今後の出材量の減少を見込み、原木を早めに買付けようとする動きが全体の価格を押し上げていると推測。(以上、木材市場)

# 公共工事

- 平成28年7-9月期の公共工事請負金額は、前年同期比で独立行政法人等が大幅増加となるも国や市町村の発注がマイナス寄与し、全体では3.7%減となり3期ぶりに前年を下回った。
- 平成28年7-9月期は受注量DI、採算DIともに下げ止まりをみせ3期ぶりに上昇に転じた。

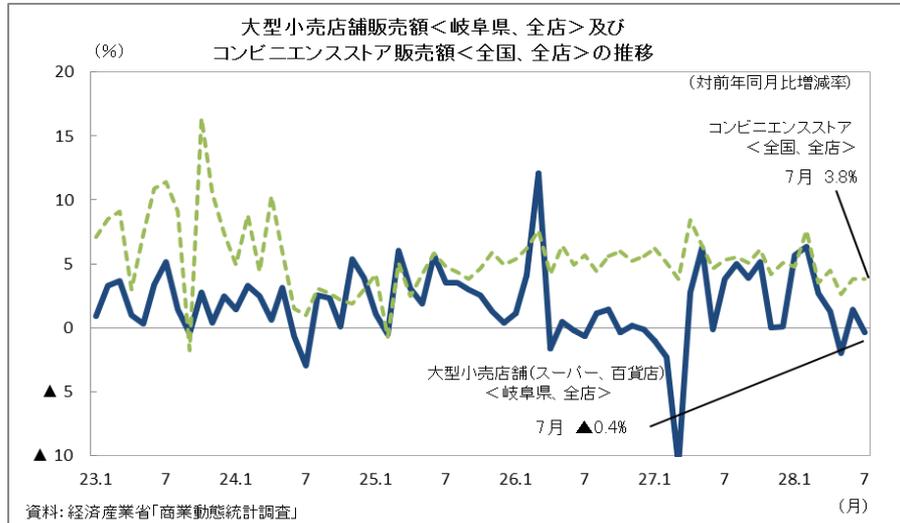


## 現場の動き

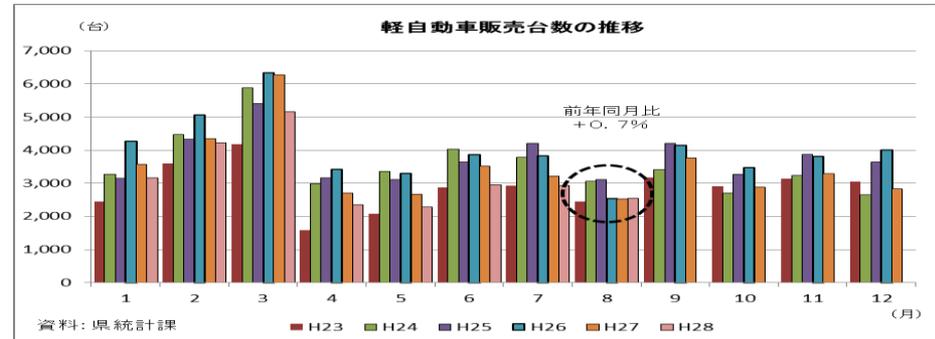
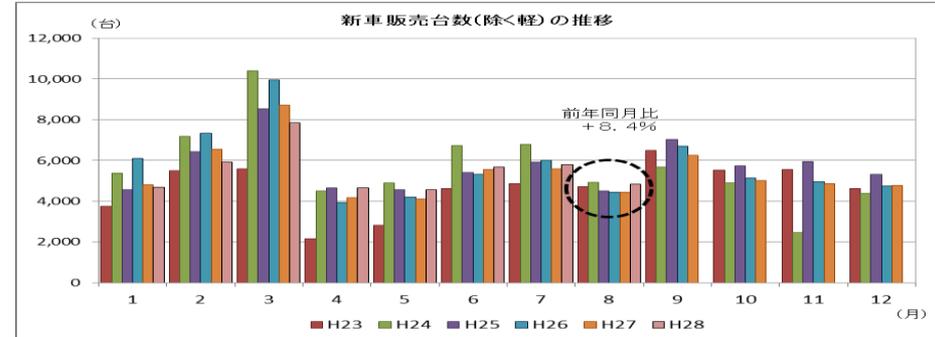
- ◆予算の早期執行(上半期で8割を目標)とされているが、昨年度からの変化が感じられない。
- ◆広く人材募集を行っているが雇用増には至っておらず、今後、工事段階での人材不足が懸念される。(以上、業界団体)

# 個人消費(流通・小売)

- 7月の大型小売店販売額は、前年同月比0.4%減と前月のプラス圏からマイナスに転じた。
- 大型小売店及びコンビニ販売額の増減率は年初から鈍化傾向が続いていたが、年央には下げ止まりをみせている。



- 8月の新車販売(除く軽)は、前年同月比8.4%増と5ヵ月連続で増加となる。一方、軽自動車は、同0.7%増と20ヶ月ぶりに増加に転じた。



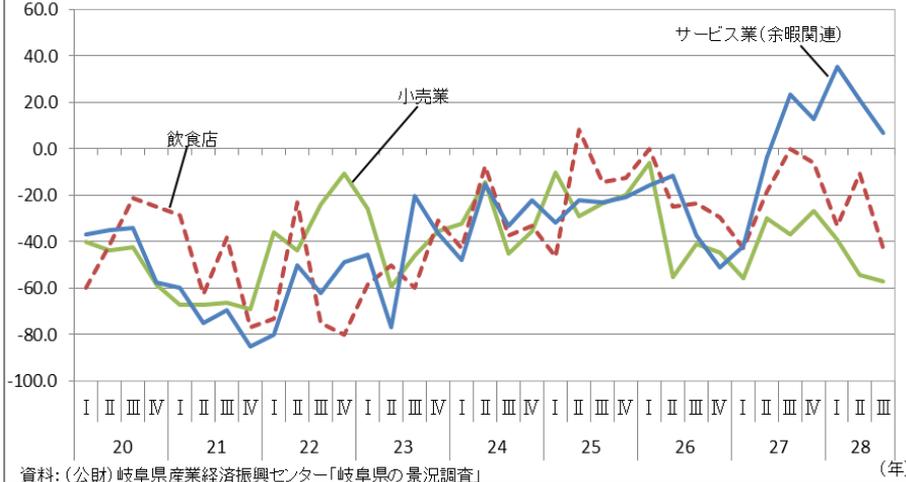
## 現場の動き

- ◆売上、客数はともに前年同月比微減。猛暑後の9月は秋物衣料品は悪い傾向にあり、それを見越して仕入れを減らした。
- ◆売上、客数は増加。客単価は微減。近隣百貨店の食品館の閉館によるものと思われる。(以上、大型商業施設)
- ◆売上、客数、客単価はともに減少傾向。その中でも、ランニングブームに代表される健康志向の高まりによりシューズを中心とした関連商品群は好調に推移。(スポーツ用品)
- ◆売上は前年同月比97%、客数は同90%、客単価は同100%。携帯電話の新機種販売前の8月末から現行機(旧機)の駆け込み需要及び新機種の予約があり売上は上がった。但し、今までと比べると販売ムードは落ち着いてしまっている。(家電)
- ◆売上、貨物量はともに10%程度の増加。特に輸出関連(機械・自動車部品)が大きく寄与した。(運輸)
- ◆売上高、客数は前年同月比115%程度。主力の弁当、調理パン、スナック麺、デザート等が好調に推移。(コンビニ)

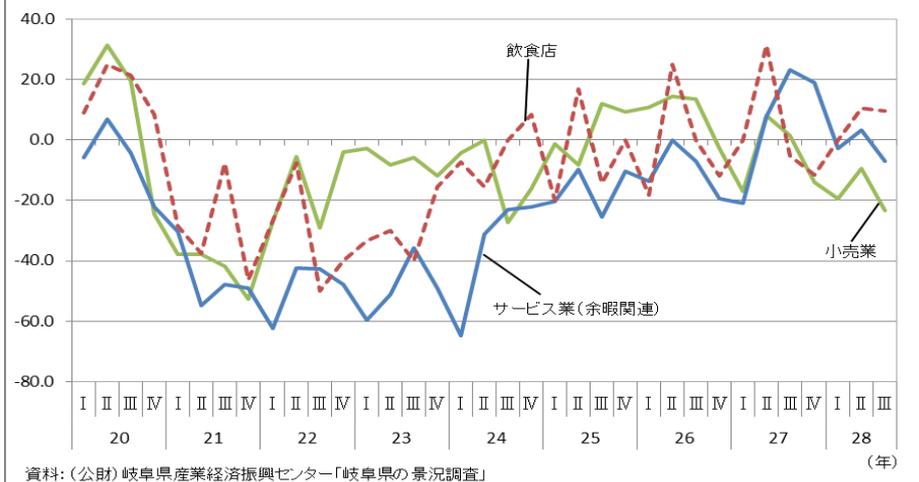
## 個人消費(流通・小売)ー2

○平成28年7ー9月期の売上高DIについては、飲食店、小売業、サービス業(余暇関連)ともに減少した。特に飲食店、サービス業は直近3ヶ年で最も低い水準となる。販売価格DIは、飲食店、小売業、サービス業(余暇関連)ともに減少し、中でも小売業、サービス業の減少が目立った。

県内企業の売上高DI(増加ー減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇ー下降)の推移



### 現場の動き

- ◆入館者数は前年同月比微減。館全体の売上は休日日数や退店店舗の影響もあり、前年同月比微減となる見込み。
- ◆飲食、物販ともに売上は前年比減少した。サービス店舗は前年並みで推移した。(以上、アクティブG)
- ◆雨の日が多く、全体的に人出が少なかった。ジュラシックアーケードは大変な盛り上がりで、飲食店の売上にも寄与。
- ◆売上は、婦人服店が前年同月比85%、飲食店が同105%。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆プレミアム付き商品券の売行きが非常に好調。映画「聲の形」の登場場所の写真を撮りに来る若者が多い。
- ◆売上は、婦人服店が前年同月比95%、和菓子店が同103%。(以上、大垣市商店街)
- ◆天候不順で全体的に良くなかった。外国人観光客(特に中国から)が減少傾向であり、売上が減少している。
- ◆売上は、陶器・土産店が前年同月比80%、衣料品店が同88%。(以上、高山市商店街)
- ◆酒類販売店の売上は前年同月比100%。天候不順もあるが、蒸し暑くて飲食店での日本酒の需要が少なかった。
- ◆子供服店の売上は前年同月比95%。天候不順で、蒸し暑く秋物が出なかった。(以上、多治見市商店街)

# 観光

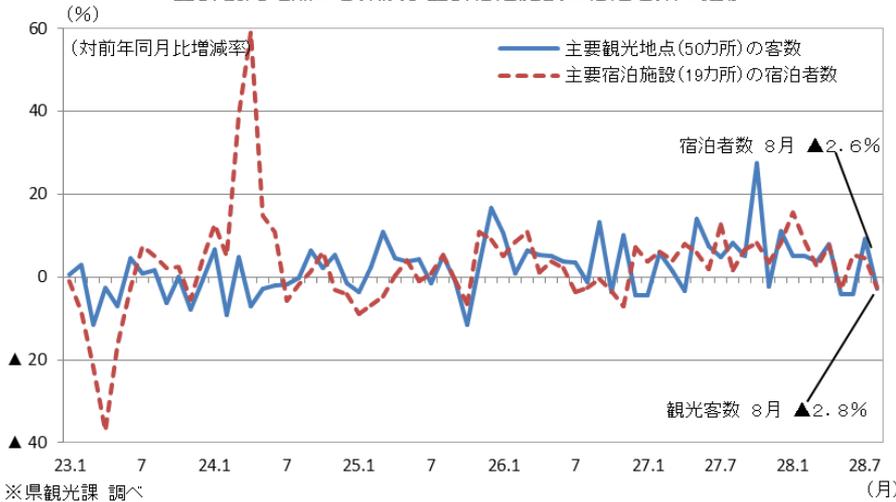
○8月の主要観光地における観光客数は、前年同月比2.8%の減と2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。

○一方、主要宿泊施設における宿泊者数は同2.6%の減と3ヶ月ぶりに前年を下回った。

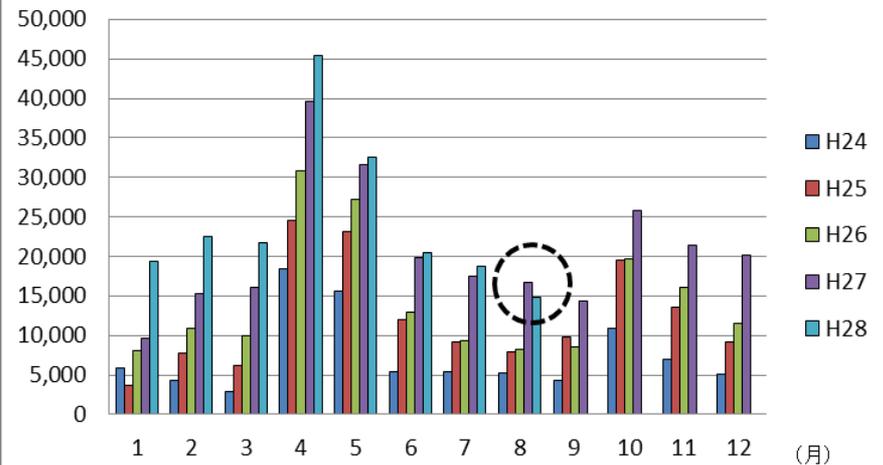
○8月の主要宿泊施設における外国人宿泊客数は、前年同月比11.1%の減と23ヶ月ぶりに前年を下回った。

○平成28年1-8月の外国人宿泊客数は、約19.6万人となり、前年同期比約18%増となった。

主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要宿泊施設 外国人宿泊客数(対前年比推移)

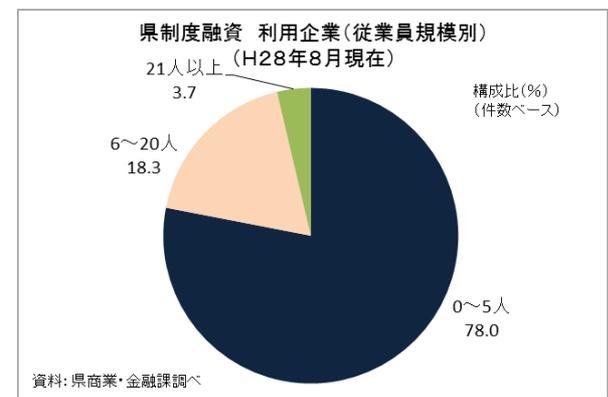
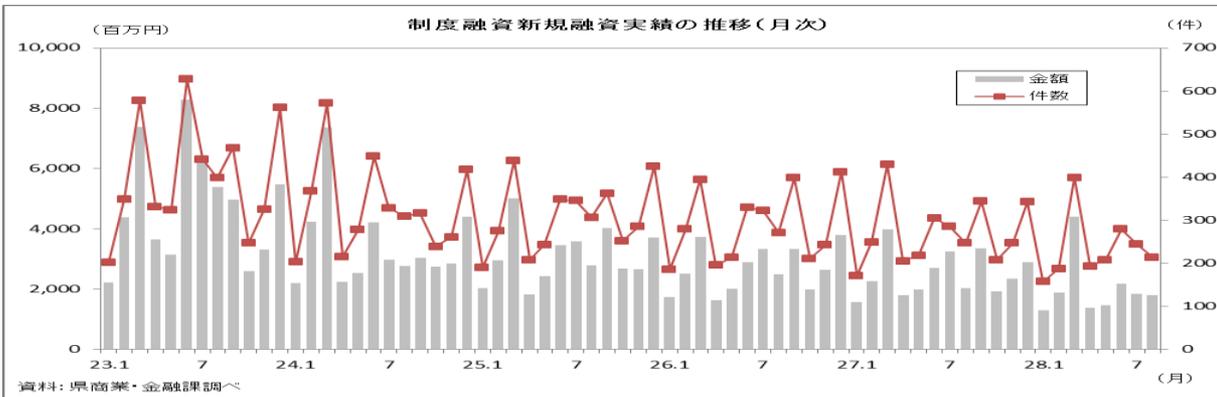
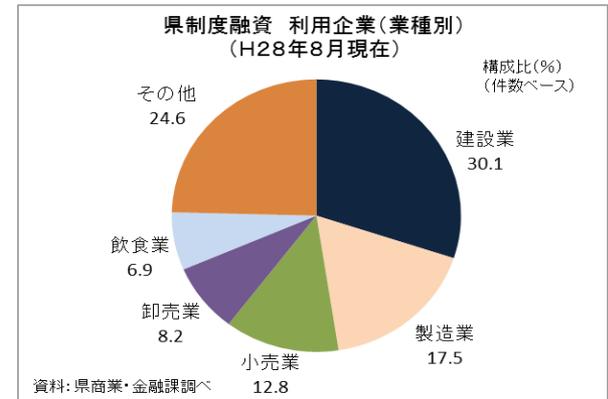
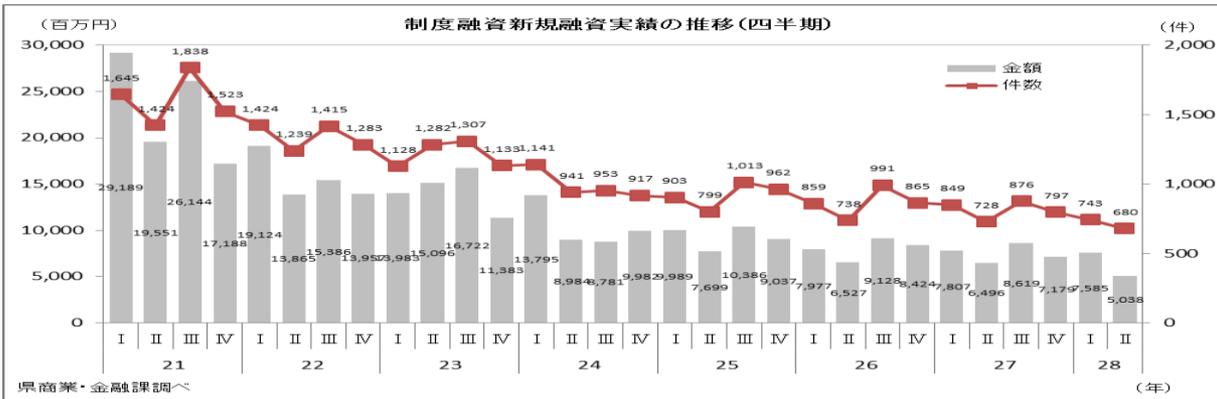


## 現場の動き

- ◆天候による影響に加え、中国人観光客の勢いにも陰りが見られ、前年同月に比べ、観光客数・宿泊客数ともに減少となった。(観光地・宿泊施設の総括)
- ◆インバウンドについては、インターネット予約による個人のお客様が多い。
- ◆中国・台湾を中心に減少傾向である。(以上、岐阜市内の宿泊施設)
- ◆個人客が低調であったが、国内の団体客を多く受注したため、前年並みとなった。
- ◆アジア経済が下降気味であることが観光消費に影響を及ぼさないか懸念している。
- ◆円高や、天候不順が悪影響を及ぼしている。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆香港からのお客様が堅調である。(下呂市内の宿泊施設)

# 資金繰り

- 新規融資実績は、年央から秋口にかけて増加傾向にあり、直近3年はほぼ同様の動きで推移している。
- 8月の実績は、金額が前年同月比11.0%減となり、5ヶ月連続して2桁減となった。また、件数も同13.4%減と9ヶ月連続で減少した。
- 建設業・製造業の利用が約5割を占め、従業員5名以下の零細企業が約8割を占める。

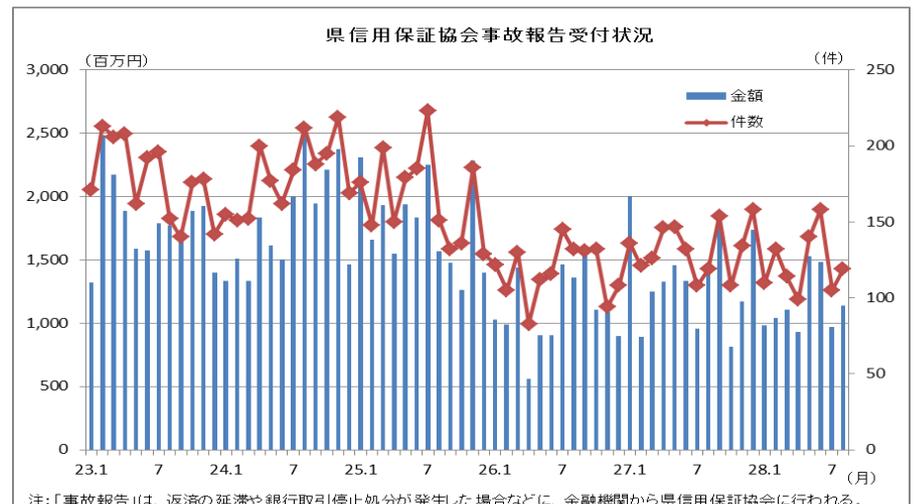
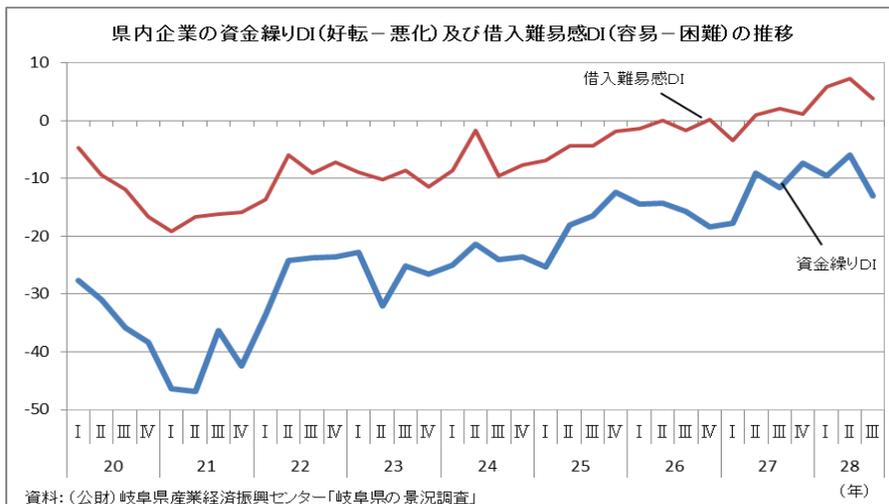
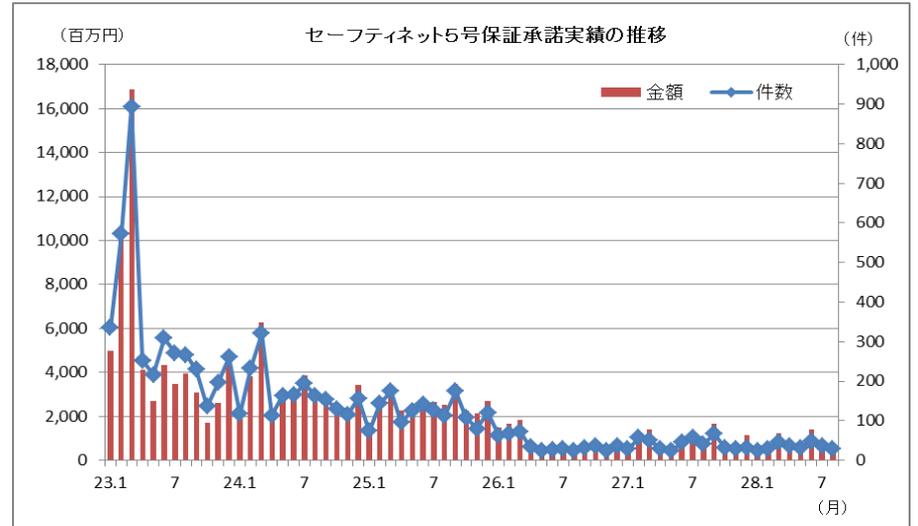
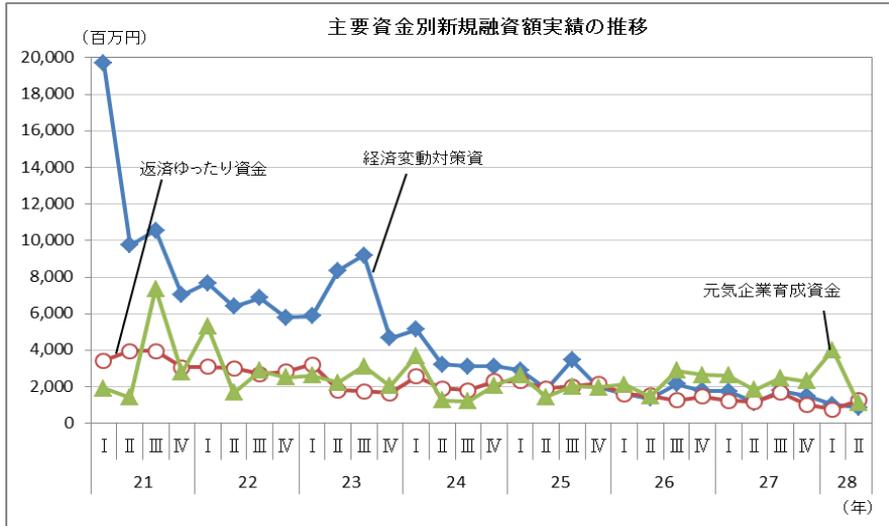


## 現場の動き

- ◆融資動向は大きな動きはなく、ほぼ横ばいで推移。住宅ローンの案件は、マイナス金利の影響で伸びている。
- ◆設備投資は更新需要程度であり、新規の大型案件は話は聞こえず落ち着いている。(以上、金融)
- ◆設備投資の余力はなく、三大固定費の削減に迫られている。(木工)

# 資金繰りー2

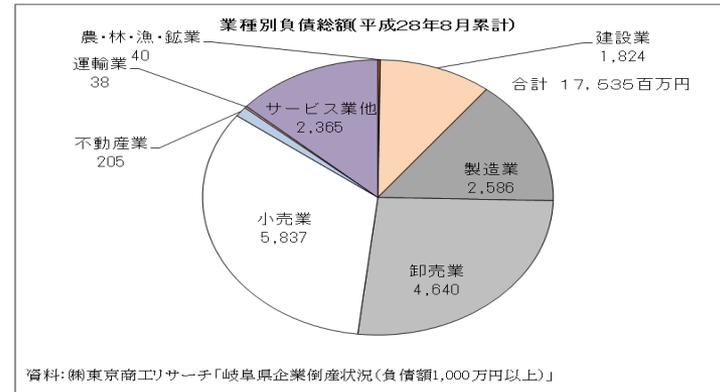
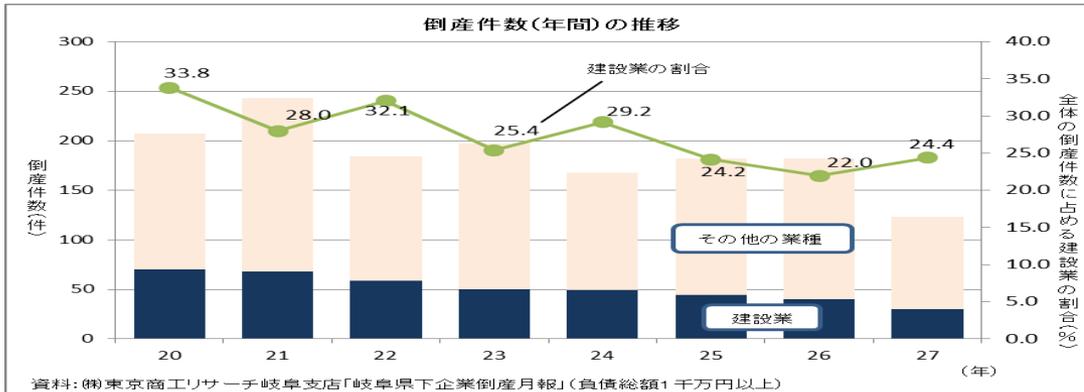
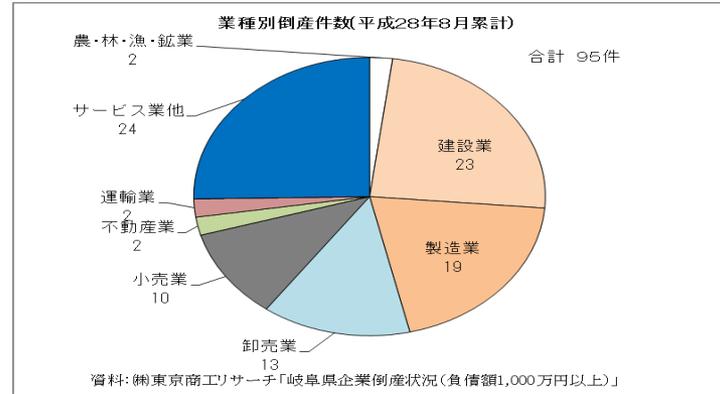
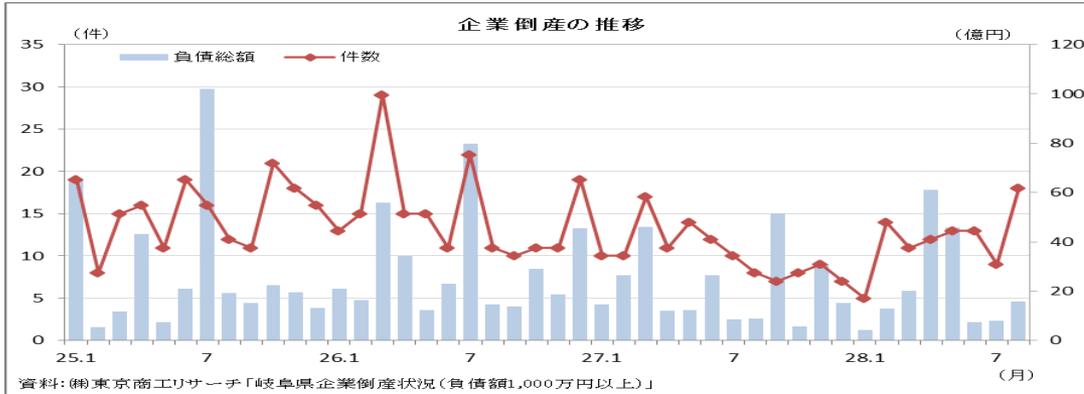
- 平成28年7－9月期の借入難易感DIは3.4ポイント低下し、3期ぶりに前期を下回った。
- 平成28年7－9月期の資金繰りDIは7.0ポイント低下し、2期ぶりに前期を下回った。
- 8月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)件数は、前年同期比±0件、金額については同17.7%減となる。事故件数は、直近2年では100から150件のレンジで乱高下を繰り返している。



# 倒産

○8月の倒産件数は前年同月比125%（10件）増の18件、負債総額は同77.3%増の15億73百万円となった。

○倒産件数、負債総額ともに、建設業、製造業、卸売業で約5割を占める。



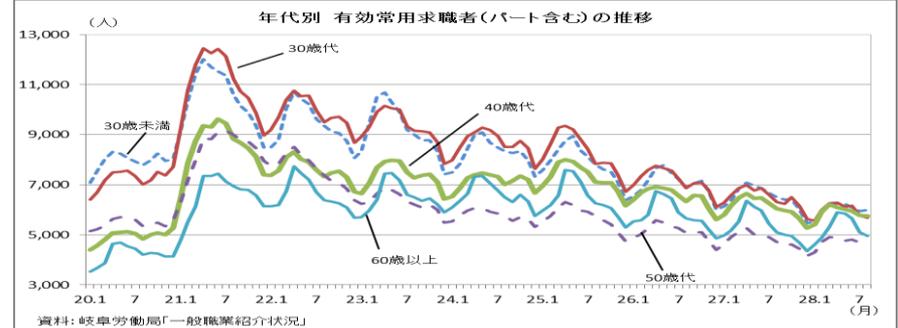
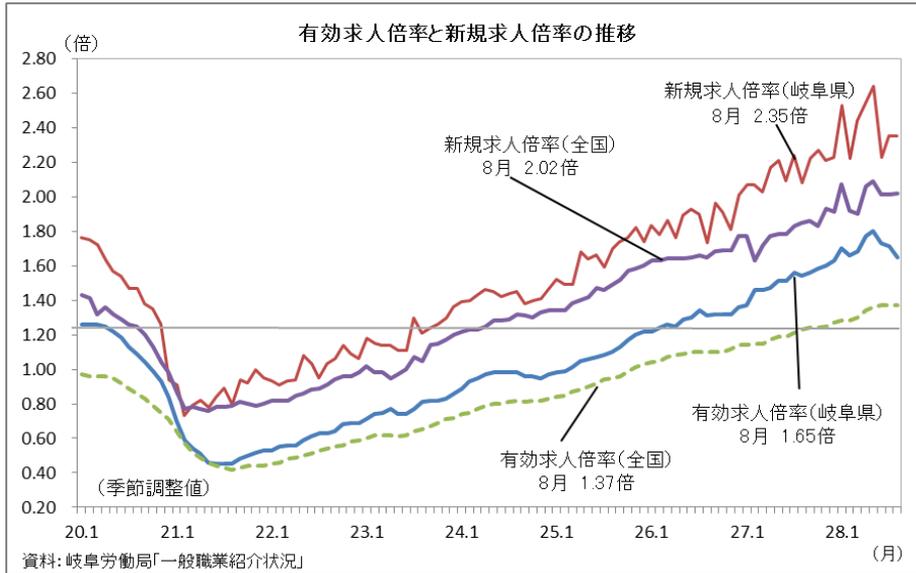
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆ 県内の1月から8月度までの累計倒産件数は95件と、前年同期間の93件から2件増加するなど、ここに来て倒産発生件数は増加基調に転じる兆候が見え始めている。業種別では、建築業、卸売業が増加している。
- ◆ 為替相場の円高基調などが、輸出型企業の採算面を圧迫している。また、個人消費においても力強さを欠くため、住宅市況の回復は遅れている。
- ◆ 経済情勢全般の先行き不透明感が否めないことから、企業経営の取り巻く環境は厳しく中小零細企業を中心にした倒産発生が続くものと見られる。

# 雇用

- 8月の有効求人倍率は1.65倍と前月より0.06ポイント低下した。
- 8月の新規求人倍率は2.35倍と前月より±0の横ばい。

- 8月の雇用保険受給者人員は前年同月比3.1%減と38ヶ月連続で前年を下回った。



## 現場の動き

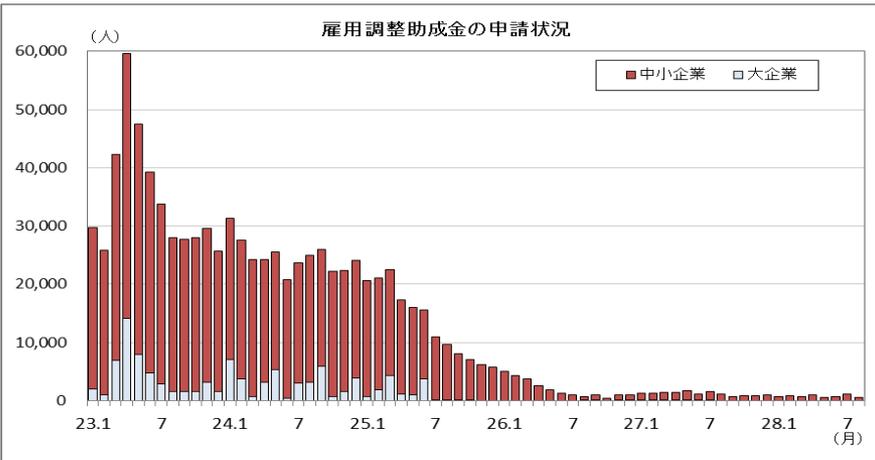
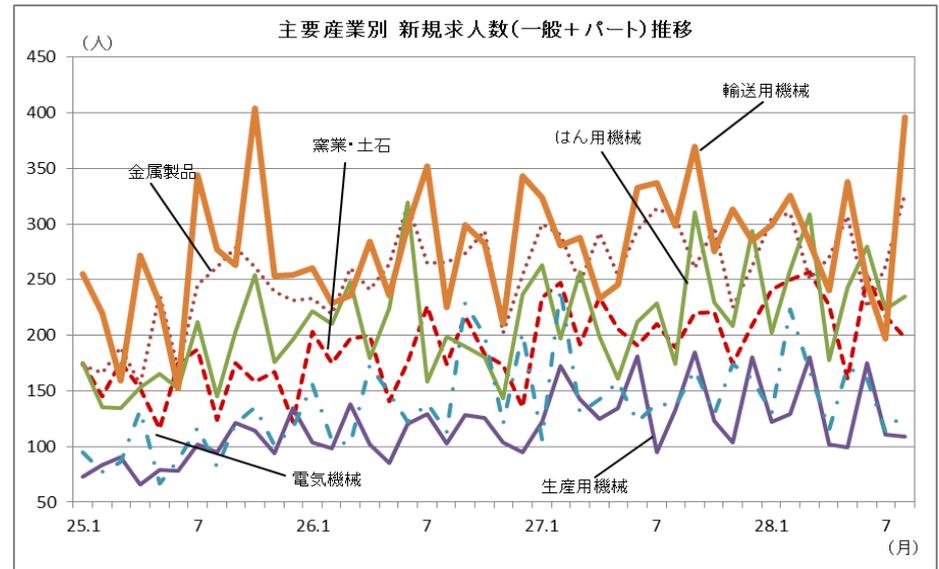
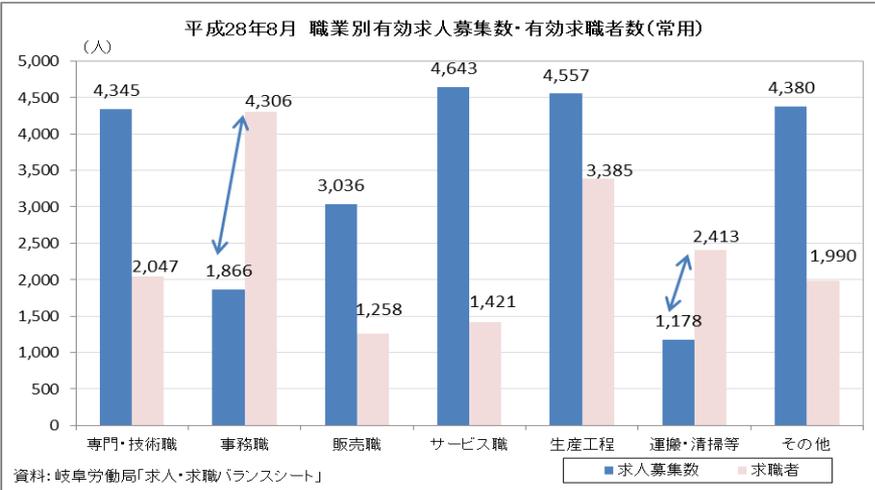
- ◆準社員・パートの応募は前月から減少。求人応募者の大半は40代後半以上の製造業未経験者。(食料品製造)
- ◆来春の採用は大卒が若干名内定済み。高卒は指定校制をとっており、応募書類が届き始めた。(輸送用機械)
- ◆大企業の雇用が順調な為、中小企業の求人・採用が厳しく、高校生の獲得も難しい状況にある。(プラスチック製造)
- ◆技術系の人員が不足感があるが、中途採用等で何とか対応している状況。(電気機械器具製造)
- ◆募集しても集まらない状況が続く。運転手もサラリーマン的になっており、不規則な勤務条件が嫌われる。(運輸業)
- ◆特に製造系の人手不足は解消されず、女性を対象に業務の振分けや就業時間の変更等を検討する企業が出てきた。
- ◆求職者は増加傾向。夏以降、転職活動が活発化。企業は半期決算を見据え、求人にも慎重姿勢。(以上、人材派遣)

# 雇 用(職業別)

- 「事務職」および「運搬・清掃等職」の求人倍率は1%以下となり、依然として求人募集数に対する求職者数のギャップが大きい。
- 雇用調整助成金は東日本大震災直後に急増したが、直近1年では月800人程度で推移。

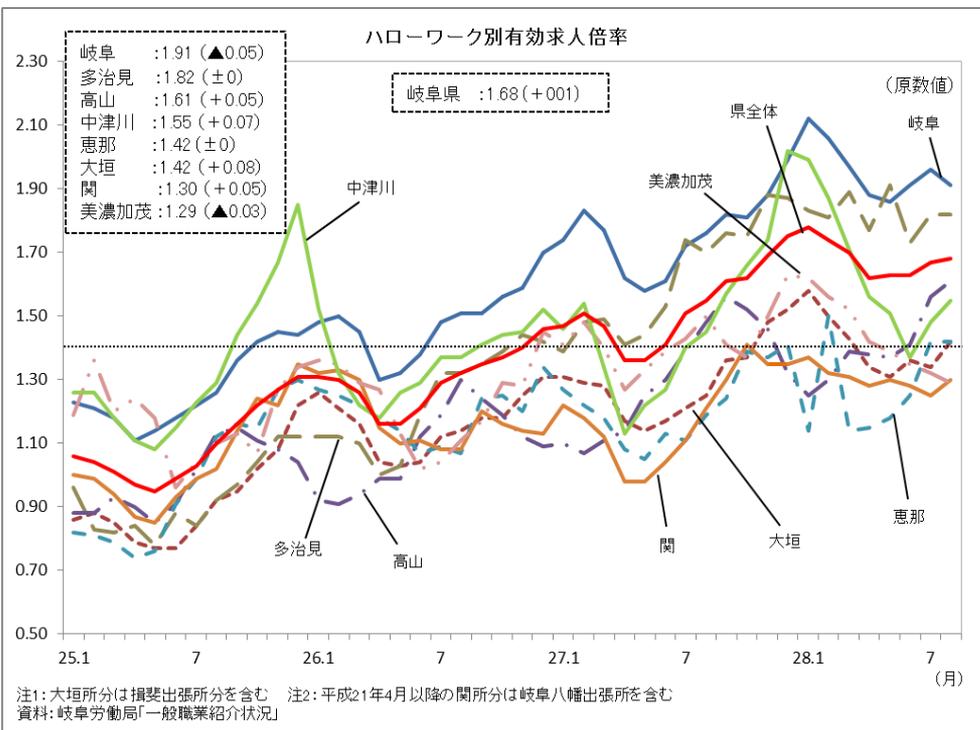
- 8月の主要産業における新規求人数は、輸送用機械、はん用機械が前年同月比30%超の大幅増加となるなど窯業・土石、金属機械も軒並みでプラスとなる。一方、生産用機械は同18%減、電気機械も減少となり、業種により明暗を大きく分けた。

- 前月比で見ると、輸送用機械と金属製品の上昇が目立った。



# 雇 用(地域別)

## 現場の動き(先月比)



### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク関>

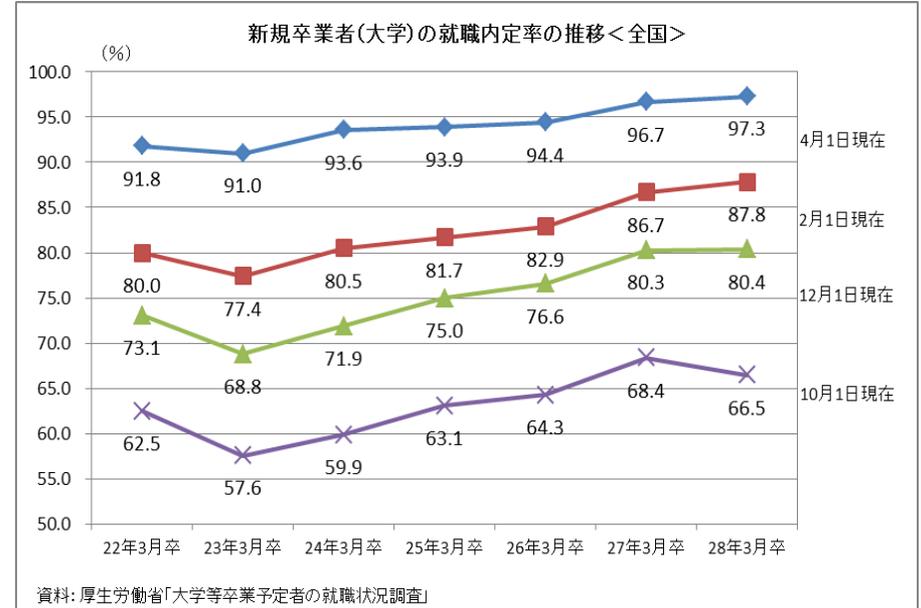
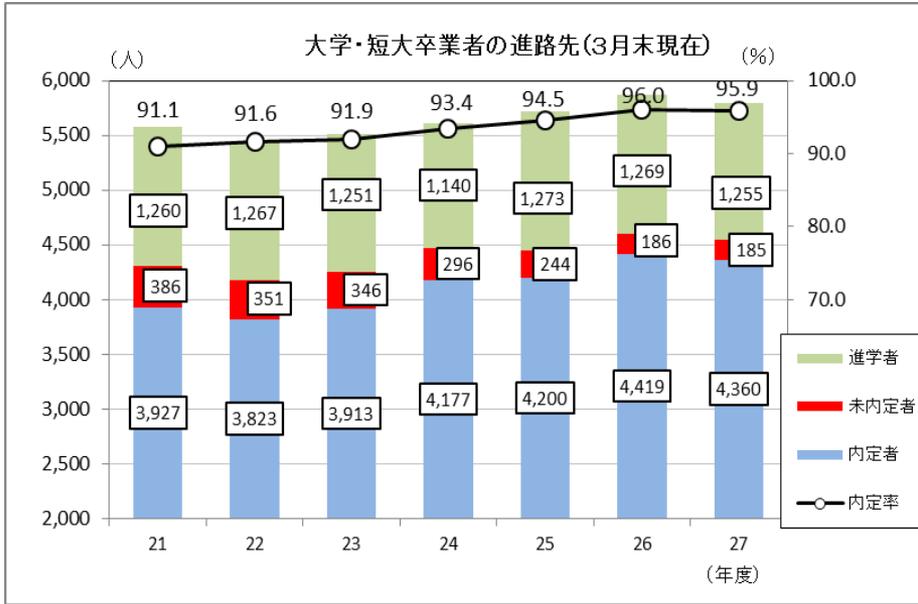
- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <窓口の様子>

- ◆高山は混んでいる。大垣、関、美濃加茂、中津川はやや混んでいる。岐阜、多治見、恵那は前月と同じくらい。

# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○3月末時点の大学・短大卒業者(平成28年3月卒業)の就職内定率は、前年比0.1ポイント減少したものの、依然として高い水準となっている。



## 現場の動き(平成29年3月卒の内定状況)

### 【岐阜県内の主な大学】

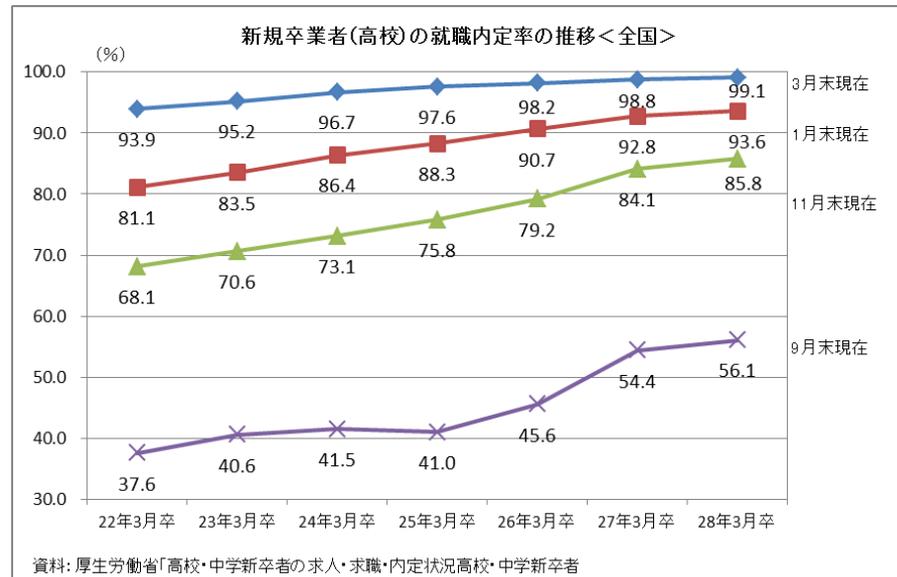
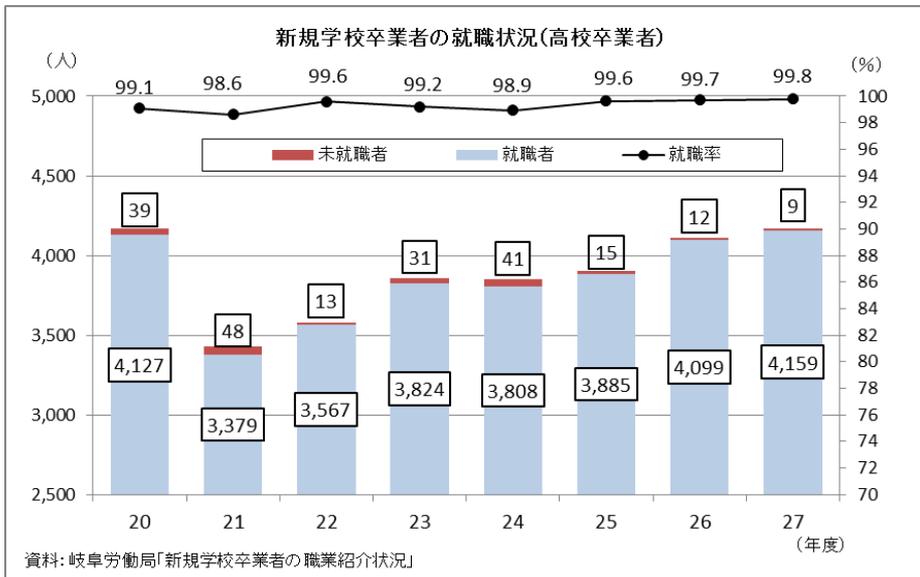
- ◆内定は70%程度。未内定者に対し電話掛け、個別面談によるサポートを継続。11月には未内定者全員に面談予定。今後は就活の促進及び間口を広げる目的で、外部の就職支援機関を招き、学内相談会を開催予定。
- ◆内定は60%超程度。後期授業がスタートし、進路未決定の学生からの相談が増え、本人希望を確認の上、求人票を提案。18年卒の学生に対してキャリア形成(教育)授業が始まった。

### 【愛知県内の主な大学】

- ◆報告ベースでは70%程度(8月末)。未内定者に対し、8月に続き9月も企業説明会を実施。18卒の学生は、300名ほどインターンシップに参加しており、積極的な動きが見られる。今後は、就職活動講座、業界研究講座を実施予定。
- ◆内定は60%弱。未内定学生に対し、ゼミ教授からの働き掛けや求人情報の更新頻度を増やす等の対応を実施。
- ◆内定は70%程度。ポータルサイトの導入により状況把握が順調。18年卒の学生に対して、就職ガイダンスを開始。

# 雇 用(高校新卒者の就職)

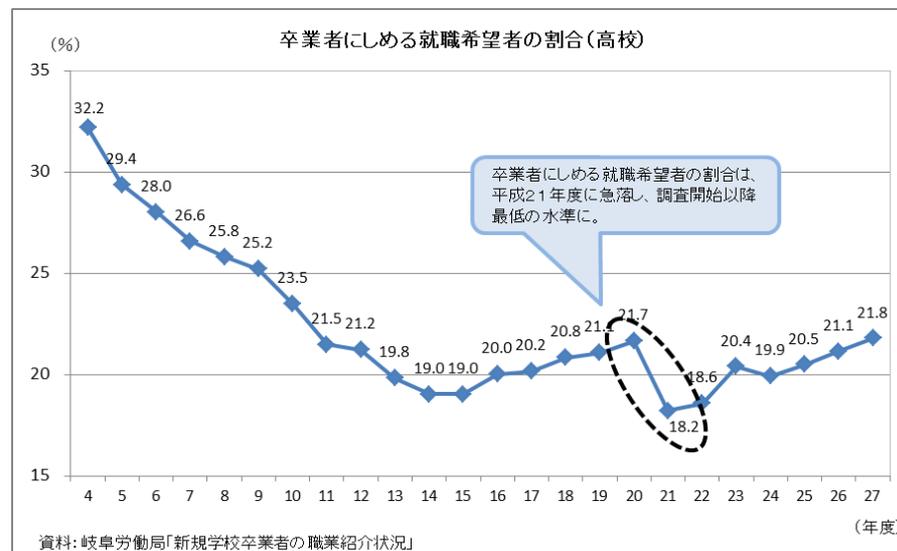
○3月末時点の高校卒業生(平成28年3月卒業)の就職内定率は、前年比0.1ポイント増加し、直近8年間において最も高い水準となり、全国比でも0.7ポイント上回っている。



## 現場の動き(H29.3卒の求人状況)

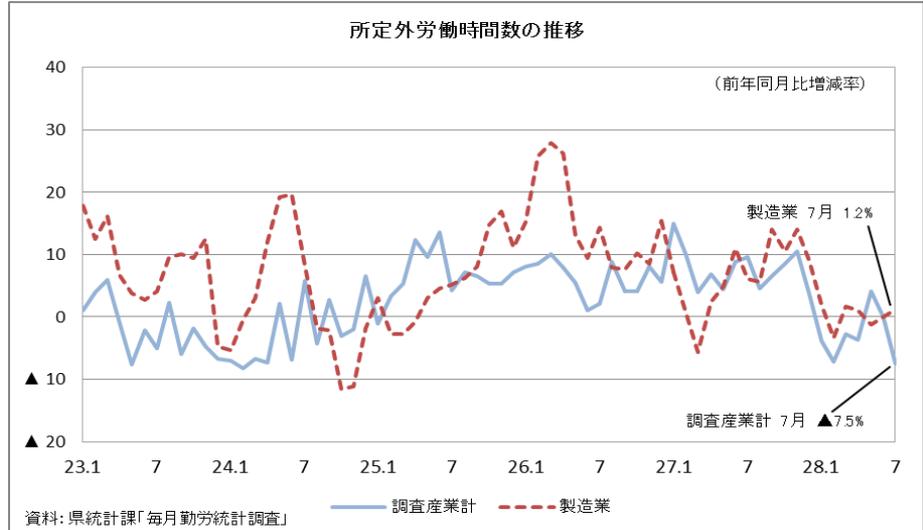
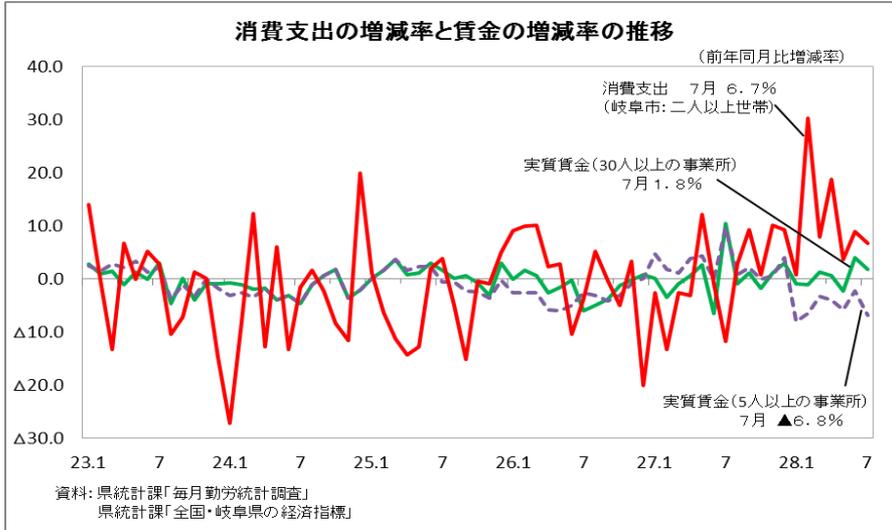
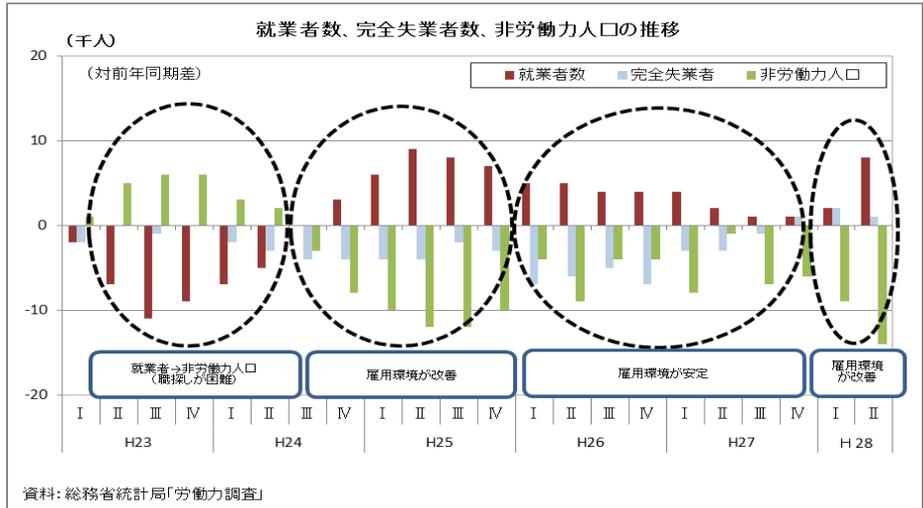
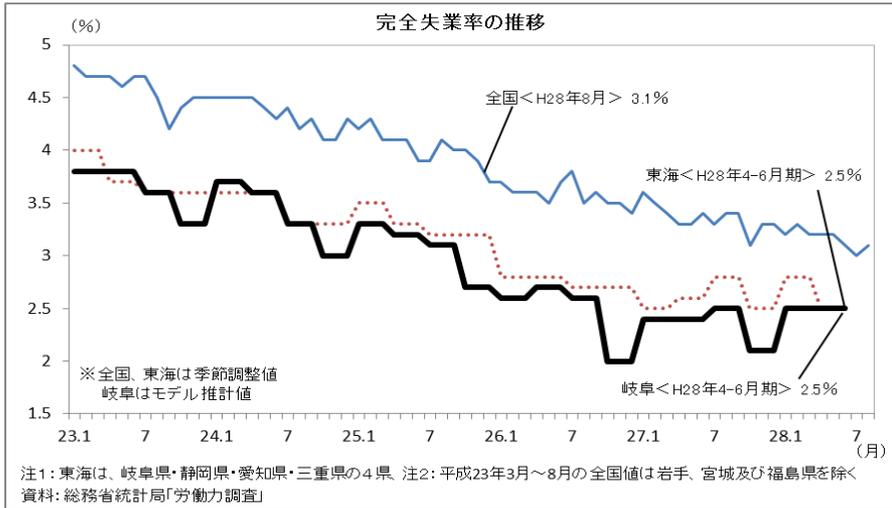
- <ハローワーク岐阜> 求人はやや増加。
- <ハローワーク大垣> 求人は横ばい。
- <ハローワーク多治見> 求人は増加。
- <ハローワーク高山> 求人は減少。
- <ハローワーク恵那> 求人は増加。
- <ハローワーク関> 求人は増加。
- <ハローワーク美濃加茂> 求人は横ばい。
- <ハローワーク中津川> 求人は増加。

※現時点で岐阜労働局から「内定状況」は公表されていません。



# 雇 用(完全失業率)

- 平成28年4-6月期の完全失業率は2.5%となり、全国と比べて低い水準にある。
- 7月の実質賃金は、事業所規模問わず低下するとともに、消費支出についても同様に低下した。
- 7月の所定外労働時間数は、前年同月比で製造業が上昇する一方、調査産業計は大幅減となった。



# ＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、輸送用機械（主に自動車産業）について、工場の爆発事故や熊本地震による挽回生産があり、生産は前年同月水準まで戻しつつある。鉱工業生産指数は、一部業種で生産の弱含みが見られるものの、全体としては持ち直しを見せはじめている。
- 為替の動きについては、直近の円高により輸出企業の多い東海圏では、製造業を中心に企業収益は減益基調にある。また、原油価格の下げ止まりによるエネルギー価格等の上昇が製造コストを押し上げているが、販売価格への転嫁が進んでいない企業が見受けられる。
- 地場産業は、直近の円高による原材料費の低減は追い風であるものの、依然として消費マインドの減退や海外製品との競合など厳しい状況が続いている。
- 個人消費は、売上の前年比増減率が年初より鈍化が続き、弱含んでいたが、下げ止まりをみせている。但し、実質賃金の増加が期待できないことから節約志向が続き、長期的にみると消費回復への足取りは重い。
- 観光は、中国人観光客を中心にインバウンドの勢いに陰りが見られ、観光客数・宿泊客数ともに前年を下回っている。
- 雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、全国と比べても良好な数値であり、総じて県内の雇用情勢は回復基調にある。但し、一部の業種では人手不足感が拡大しており、求職と求人のマッチングが今後の課題である。
- 企業の資金繰りは、足元、製造業・非製造業ともに低下傾向にある。借入難易感是非製造業で若干低下がみられるが、製造業を中心に緩やかに改善している。